

ソウシチョウ（スズメ目チメドリ科：相思鳥）



（提供：水野マリ子）

■見分け方

スズメぐらいの大きさの鳥です。くちばしから尾までの長さは 15 cm ほどです。喉から胸は黄色く、目の周りは白く、翼は緑・オレンジ・黄色の羽を持ち、くちばしは赤く色鮮やかです。メスは、オスより羽の色が淡色です。色鮮やかな鳥なので姿がしっかり見られれば、判別はしやすいです。ただし、茂みの中にいることが多くかつ動きが早いです。

さえずりは、クロツグミのように複雑で声量のある声ですが、リズム感に欠けます。地鳴きは、ジェット、フィーフィー、ギチギチなどと鳴きます。良く鳴く鳥なので姿が見えなくても声でその存在を知ることが多いです。

■見られる時期と場所

標高 1000 メートル前後の山で 1 メートルを越すササの藪があるところに巣を作ります。繁殖期の 4 月から 11 月頃には、茶臼山や面の木原生林（豊田市稲武地区）、段戸裏谷（設楽町）など標高の高いところで観察できます。秋には標高の低い場所に移動して小さな群れで冬を越します。標高 100m 前後の豊田市自然観察の森ではほぼ毎年越冬し、近年名古屋市内の公園などでも姿を見ることがあります。

■ どのような問題があるのですか

ハワイ諸島では、ソウシチョウ増えすぎた地域でもともといた鳥が減少しています。日本でも、同じ環境を好むウグイスやコルリなどへの影響が心配されます。また、面の木原生林や段戸裏谷などでは、ソウシチョウのさえざりばかりが聞こえてきて本来の環境ではなくなっていました。

特定外来生物、日本の侵略的外来種ワースト 100 に入っています。

■ いつ頃から愛知県で見られるのですか

中国などに生息し、古くから飼育鳥として親しまれヨーロッパやアメリカなどに輸出されてきました。日本には、江戸時代から飼育の記録があります。九州の 1000m 越す山地では、ほとんどで繁殖が確認され、本州では六甲山系、大台ヶ原、丹沢山系、秩父山系、筑波山などで繁殖しています。愛知県では、2000 年に段戸裏谷原生林で観察されたのが最初です。現在では、豊田市面の木原生林、茶臼山など 1000m を越す山地の多くで繁殖をしているのではないかと考えられます。

参考文献

江口和洋. 2002. ソウシチョウ. 外来種ハンドブック. 地人書館.

緒方清人. 2005. 愛知県におけるソウシチョウの初繁殖. 西三河野鳥の会研究年報 Vol.8. 西三河野鳥の会.

川上和人. 2012. ソウシチョウ. 外来鳥ハンドブック. 文一総合出版.

多紀保彦監修. 2008. ソウシチョウ. 日本の外来生物. 平凡社

高橋伸夫. 2012. ソウシチョウ. STOP! 移入種 守ろう! あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～. 愛知県.

愛知県ウェブサイト. 2011. 愛知県環境部 特定外来生物ソウシチョウの生息状況

<http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000048/48975/1.pdf>

国立環境研究所ウェブサイト 侵入生物データベース

<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>

NPO 法人バードリサーチウェブサイト 外来鳥ウォッチ

http://www.bird-research.jp/1_katsudo/gairai/index.html

文責：大畑孝二